

ルカ 14・25-33

今日の福音にも、エルサレムへの道を進まれるイエスが残されたみことばが響いています。あのとき、エルサレムを目指す道を行かれるイエスは、付き従ってくる人々の方を振り向いて、今日わたしたちが聴いたみことばを語られたのでした。

今日のミサの中で、わたしたちはこのみことばを、わたしたちが信じているイエス・キリストのみことばとして聴きました。わたしたちはわたしたちが信じているイエス・キリストをどのようなお方として信じているのでしょうか。わたしたちが信じているイエス・キリストは、十字架の死を越えて復活され、父なる神の右の座についておられるイエス・キリストです。わたしたちは今日もこのミサの中で、わたしたちが信じているそのイエス・キリストに向かって、わたしたちの主イエス・キリストとその御名を呼んでいます。エルサレムに向かう旅の途上で、付き従って来た人々の方を振り向いて、今日の福音のみことばを語られたわたしたちの主イエス・キリストは、神の栄光の座から、ここに集うわたしたちに目を留めてくださって、わたしたちが聴いたこのみことばを語り聴かせておられるのです。そのようなみことばとして、今日の福音のみことばにあらためて心を向けたいと思います。

イエスに付き従って来た人々にとって、エルサレムへのこの旅は自分たちが計画した旅ではありません。今日の福音に語られている人々は、律法の掟に定められている年数回の祭のたび毎に、晴れやかな興奮に満ちた心で、幾度もこの道を行き来してきたことでしょう。しかし、過ぎ越しの祭も間近なこの時期に、イエスの後に付いてエルサレムに上るこの旅は、それまでの何の屈託もない、祭の華やかな雰囲気にも包まれたものではなかったのです。その旅の途中、イエスは一度ならず、エルサレムでご自分を待ち受けている運命について包み隠さず話し始められたからです。今日わたしたちが聴いたみことばもそのようなみことばです。御自分に付き従って来た人々の方を振り向いてイエスが語られた今日のみことばは、イエスの目にははっきりと見えているエルサレムで起こるであろう全てのことを、父なる神から与えられた御自分の使命として受け入れようとしておられるイエスのみことばです。イエスは、エルサレムへのこの旅を共にしようとしている人々に、御自分の覚悟を打ち明け、その覚悟を共にするように、語りかけておられるのです。わたしたちは、あのときイエスが語られた今日の福音のみことばを、イエスと共にエルサレムへ行こうとしていた人々がどのように受け止めたか、あるいは、どのように受け止めそこねたか

を知っています。人々は、イエスの後に付いてエルサレムを目指すこの旅が特別なものであることは意識していたのです。彼らは、イエスの語られる神の国の福音のメッセージに心惹かれてイエスの一行に加わった人々です。イエスは、彼らに馴染み深い旧約の預言者たちのように遠い未来の神の国について語っただけではありません。イエスに付き従って来た人々は、イエスのみことばに耳を傾けることによって、預言者たちが告げていた神の国が、イエスが語られるように、今自分たちの中に到来しつつあることを感じ取っていたのです。彼らが聴いたイエスのみことばは、権威ある教えでした。イエスが命じられると、悪霊はそれまで憑りついていた人の中から、彼らの目の前で、大声を上げて追い出されていったのです。病に苦しむ人々、障害を負った大勢の人々が、イエスの一言によって癒されるのを彼らは目撃してきたのです。イエスのうちに神の大いなる力が働いていることを知った人々は、自分たちの中に神の国の実現をもたらすメシアへの期待をイエスに投影していたのです。今自分たちがイエスとともにそこを目指して進み行くエルサレムは、預言者たちが告げていることによれば、神からのメシアが最終的にそこに現れる神の都です。人々は、エルサレムで待ち受けている受難を予告するイエスのみことばを耳にしながらも、なお、イエスと共にたどる彼らの旅の彼方に、彼らがメシアと信じたイエスによって、決定的な神の救いの出来事が起こることに期待をかけていたのです。そのような期待にすぎりつくようにして人々は、イエスがこれほどまでにはっきりと予告しておられるイエスの受難の地となったエルサレムへとイエスの後に付いて歩を進めていったのです。今日の福音に語られている人々は、自分たちがイエスに寄せていた期待によって、自分たちがイエスに託した自分たちの夢にすぎりつくことによって、今日の福音の中でイエスが語られているみことばから身をそらしてしまう結果となったのです。今日わたしたちが聴いたイエスのみことばにもかかわらず、全てを捨てて十字架の道へと歩み行かれるイエスに従う用意が彼らの中には出来てはいなかったのです。

聖書は、そこに語られていることが、時代を超えてそれと向かい合う者たちに向けて語られている神からのメッセージとして、教会が大切に保存し伝えてきた書物です。信仰の集いであるミサの中でその聖書のみことばを聴くことによって、わたしたちは今日わたしたちを教え諭しておられる主のみことばを聴くのです。今日の福音の主のみことばは、主の御後に従おうとするわたしたちの信仰の歩みを顧みるようにわたしたちに促しています。今日の福音に即して言うなら、あのとき、御自分の後に付き従う人々の方を振り返ってイエスが言われたみことばに照らされて、わたしたちのカトリック信者としての信仰を振り返る必要があります。「もし誰かがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、さらに自分のいのちであろうとも、これを憎まないなら、

わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負って着いて来る者でなければ、誰であれ、わたしの弟子ではありえない」と、今日も主はわたしたちに語りかけておられるのです。このみことばを受け止めて、今日新たにわたしたちの歩みを振りかかって顧みることが、カトリック信者としてわたしたちの信仰の歩みを振り返るということです。

十字架の死をもって、わたしたち全ての者に永遠のいのちへの道を開いてくださった、わたしたちが信じている主イエス・キリストは、その御跡に従おうとするわたしたちを十字架のもとにまで導き、十字架の前に立たせてくださろうとしているのです。何故イエスは、わたしたちにとってかけがえのない愛する肉親さえも、さらには、この世における自分自身のいのちさえも憎まなければ、どこまでもイエスに付き従うイエスの弟子ではありえないとまで言われるのでしょうか。わたしたちが生きるこの世の人生に最終的な意味を与えられている、わたしたちにとってこれらのかけがえのないものを、イエスが諭しておられるように、打ち捨てるようにして手放す覚悟が出来ていなければ、わたしたちはこの世のしがらみから脱して、一人の人間として真の自分自身になることが出来ないからです。わたしたちが信じているわたしたちの救い主イエス・キリストは、イエスの後に付き従う群衆としてのわたしたちではなく、聖母のお姿に示されているように、イエスの十字架の前に立つ一人の人間としてのわたしたちに出会うことを求めておられるのです。わたしたちにとっての信仰とは、イエスが招く十字架の道への旅立ちなのです。その覚悟を新たにしよう今日のみことばはわたしたちに呼びかけているのです。

十字架こそがわたしたちを永遠のいのちに招き入れる狭い戸口なのです。全てを置いてその戸口をくぐる事が出来た時、わたしたちはイエスの御跡につき従って来た、イエスの弟子としてのわたしたちの旅の真の目的地に到達するのです。そこにおいて、わたしたちに先立って、わたしたちを導かれたイエスとともに、永遠のいのちそのものである神の懐に迎え入れられるのです。その神の永遠のいのちの懐の中で、この世において涙のうちに後に残してきたわたしたちが愛した者たちとの奪われることのない再会の喜びに満たされることでしょう。わたしたちに先立って十字架の道を進まれ、十字架の死を越えて復活されたわたしたちが信じているわたしたちの主イエス・キリストは、今日のミサの中で、ここに集うわたしたち一人ひとりに改めてそのことを保証してくださるのです。そのようなイエスのみことばとして、今日の福音で聴いた主のみことばに深く心を留める恵みを願いたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高